

**「学校・教育委員会が実践する教育の質を高める  
働き方改革推進プラン」における  
令和7年度の伴走支援校の取組み**

# 桜丘小学校の取組み内容紹介（1/2）

桜丘小学校ではプランの取組みの他、道徳授業の持ち回り制、昼読書等の取組みを実践してきました。

## プラン関連の取組み

<p>教科 担任制</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>具体的な進め方については、学年に委ねる形を取っている。</li><li>例えば、4クラスの学年と6クラスの学年では、ローテーションの組み方等、最適な方法が異なるので、各学年に任せている。</li></ul> <p>6割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。 学級担任以外の教員も子どもたちの様子を把握できる、教材準備に集中できる等の効果あり！</p>
-------------------	---

<p>学校 徴収金 事務の 見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>副校長が全体を把握し、取りまとめ少しずつ各学年会計担当に委ねていった。</li><li>来年度は事務が全体を把握していく。</li></ul> <p>「慣れれば負担減につながりうる」と期待する声の一部の教員から挙がっている。一方、導入時は一時的に調整負担等が増えるという声も。</p>
-----------------------------------	--

## 独自の取組み

<p>PICK UP</p> <p>道徳授 業の持 回り制</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>教科担任の段階付けという観点で、まず道徳の単元を持ち回り制にするところから始めた。</li></ul> <p>6割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。 児童理解が深まる、教材研究の負担減につながる、授業力を高められる、といった効果あり！</p>
---	---

<p>昼読書</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>昼休み・清掃後、すぐに5時間目を始めると慌ただしくなるため、5時間目の前に「昼読書」時間を設定。</li><li>「伏せてもいいよ」と声掛けを行いつつ、子ども達それぞれが心を落ち着かせて5時間目を始められる時間とした。</li></ul> <p>7割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。 児童がリラックスできる、5時間目が落ち着いて始められる、といった効果あり！</p>
------------	--

# 桜丘小学校の取組み内容紹介 (2/2)

前頁で紹介した「道徳授業の持ち回り制」の取組みについて、取組みの背景や工夫、学校の先生の声等を伺いました。

PICK UP  
道徳授業の持ち回り制

・教科担任の段階付けという観点で、まず道徳の単元を持ち回り制にするところから始めた。

6割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。児童理解が深まる、教材研究の負担減につながる、授業力を高められる、といった効果あり！

変化前



Q

取組みの背景や課題感として、どのような思いがありましたか？

A

若手教員が多く（3分の1が初任校）、道徳授業の質の向上及び教材研究にかかる負担軽減を目的に実施しました。教科担任制の導入と同じタイミングなら保護者の理解を得られやすいという判断もありました。

変革期



Q

取組みを進める中で、工夫されたこと・意識されたこと等がありますか？

A

クラス数が学年により4～6クラスと差があります。そのため、4クラスの学年は単元ごとにまとめて、6クラスは3・3に分けて実施する等、学年によって実施方法は変更しました。

変化後



Q

この取組みを実施したことで、授業準備の負担軽減と授業の質の改善が図れているとのことですが、先生方からは実際にどのような声が挙がっていますか？

A

教材研究の回数減による効率化や、複数回授業ができることで、質の向上の意見はアンケート結果からも上がっています。また、全クラスに入ることによって学年の児童の様子が見える、担任だけでなくみんなで学年を見ていくことができる、といった教員と児童の関係性づくりに効果を感じる声も上がっています。

# 世田谷小学校の取組み内容紹介（1/2）

世田谷小学校ではプランの取組みの他、経営支援部のリニューアル、給食指導のローテーション対応等の取組みを実践してきました。

## プラン関連の取組み

### 教科 担任制

- 昨年度から、学校独自で教科担任制を実施。今年度は、加配の教員を配置することで、さらに時間外在校等時間の削減や教材研究の効率化ができています。

約7割の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。  
教材研究の時間が短縮される、児童理解が深まる等の効果あり！一方、時間割調整の自由度が低いといった声も。

PICK UP

### 学校 徴収金 事務の 見直し

- 都事務の職員に経営支援部に参加してもらうことを通じて、事務職員と連携しシステムの導入、運用を行うことができています。

5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。  
会計報告の作成が不要になった、現金のやり取りが減りミスが減る等の効果あり！一方、準備や登録に時間と負担がかかったとの声も。

## 独自の取組み

### 経営支 援部のリ ニューア ール

- 副校長、主幹教諭、主事、事務、副校長補佐、SSSによる経営支援部を立ち上げた。
- ランチ会等の実施を通じて、働き方改革について何ができるか等、職務内容の連携・協議等を行っている。SSSや副校長補佐には民間出身者もあり、その知見を活かし関わっていただいている。

5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。  
校内職員との連携が円滑になる、一人で仕事を抱え込まない職場づくりにつながる、といった効果あり！

### 給食指 導のロー テーション 対応

- 専科の教員を含め、給食時間の児童対応をローテーションで行うこととした。

- 5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。
- 週に1回程度（多くて2回）給食時間に空きができ、落ち着いて昼食を取れる、事務作業の時間を確保できる、児童理解につながる、といった効果あり！

# 世田谷小学校の取組み内容紹介（2/2）

前頁で紹介した「学校徴収金」の取組みについて、取組みの背景や工夫、学校の先生の声等を伺いました。

PICK UP

学校  
徴収金

・ 都事務の職員に経営支援部に参加してもらうことを通じて、事務職員と連携システムの導入、運用を行うことができています。

5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。会計報告の作成が不要になった、現金のやり取りが減りミスが減る等の効果あり！一方、準備や登録に時間と負担がかかったとの声も。

変化前



取組みの導入はどのように進めましたか？



事務職員と、今年度の働き方改革の取組みについて話し合ったときに、学校徴収金事務の新しいシステム導入に関する事務を担当してくれることになりました。教員が担う業務と調整をしながら、事務職員が学校徴収金事務を対応してくれるようになりました。

変革期



取組みを進める中で、工夫されたこと・意識されたこと等がありますか？



本校では、事務室と職員室が、経営支援部としてワンチームで機能していることが強みであると考えています（経営支援部の取組みは前頁参照）。その強みを生かして、学校徴収金に関しても、事務職員と教員が主体的に連携・調整を行うことができました。

変化後



この取組みを実施したことで、会計報告や現金の取り扱い等の負担が減ったとのことですが、先生方からは実際にどのような声が挙がっていますか？



学校徴収金の新しいシステムを主に事務職員が担当することで、負担感の減少の効果を感じる声が多くあがっていると思われます。また、学校徴収金に限らず、「経営支援部のリニューアル」によって事務職員をはじめとした校内職員との連携が円滑になったことで、「一人で仕事を抱え込まない職場づくりにつながる」、「課題解決・業務改善につながる連携ができる」、といった声も挙がっています。

# 中里小学校の取組み内容紹介（1/2）

中里小学校ではプランの取組みの他、チーム担任制の導入、水曜日の4時間授業等の取組みを実践してきました。

## プラン関連の取組み

教科担任制	<ul style="list-style-type: none"><li>5年生、6年生において、チーム担任制と組み合わせて教科担任制を導入している。</li></ul> <p>約5割の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。加配のあった学年においては、持ち時数が少なくなり教材研究時間や成績処理の負担が軽減するといった効果あり！</p>
-------	--

学校徴収金事務の見直し	<ul style="list-style-type: none"><li>副校長が主導して、年度当初から名簿の作成、提出書類の確認等を行った。今後は学校事務ともやり方を共有して進める予定。</li></ul> <p>「慣れれば負担減につながりうる」と期待する声の一部の教員から挙がっている。一方、導入時は一時的に調整負担等が増えるという声も。</p>
-------------	--

## 独自の取組み

チーム担任制の導入	<ul style="list-style-type: none"><li>管理職主導で、欠員発生時の対応をチームで行うこと等を目的に、今年度より取組みを開始した。</li></ul> <p>複数の教員が児童と関わることで児童理解につながることを期待する声の一部の教員から挙がっている。一方で、情報共有やルールの統一、時間割やローテーションの見通しが立ちにくいといった声も。</p>
-----------	---

PICK UP 水曜日の4時間授業	<ul style="list-style-type: none"><li>会議や教材研究等、放課後の業務時間を確保するため、毎週水曜日を4時間授業とした。</li><li>クラブ・委員会がない月曜日の6時間目を通常授業とした。また、モジュールの活用によって、時数を確保している。</li></ul> <p>6割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。会議時間の確保や早退勤につながるという効果あり！</p>
----------------------	---

# 中里小学校の取組み内容紹介（2/2）

前頁で紹介した「水曜日の4時間授業」について、取組みの背景や工夫、学校の先生の声等を伺いました。

PICK UP  
水曜日の4時間授業

- ・ 会議や教材研究等、放課後の業務時間を確保するため、毎週水曜日を4時間授業とした。
  - ・ クラブ・委員会がない月曜日の6時間目を通常授業とした。また、モジュールの活用によって、時数を確保している。
- ➡ 6割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。会議時間の確保や早退勤につながるといった効果あり！

変化前



Q

取組みの背景や課題感として、どのような思いがありましたか？

A

放課後の会議が毎日のように開催されおり、教材研究等に時間が割けなかったという課題から、水曜日4時間授業を実施しました。それによって、会議を水曜日に集中させ、平日の放課後にフリーな時間を創出できました。

変革期



Q

取組みを進める中で、工夫されたこと・意識されたこと等がありますか？

A

普段なかなか設定できない会議を、できるだけ水曜日に設定することとしました。また、急な会議や作業についても、水曜日の隙間の時間に盛り込むことができました。

変化後



Q

この取組みを実施したことで、会議時間の確保や早退勤につながるといった効果があったとのことですが、先生方からは実際にどのような声が挙がっていますか？

A

会議の他にも、「教員同士の相談や事務作業、教材研究の時間を確保できる」という声が挙がっています。また、「放課後の時間に余裕が生まれ、早退勤や年休の消化がしやすい」という声もあります。また、週の中日に、4時間で下校できることは、児童にとっても教員にとっても、心身の負担軽減・リフレッシュにもつながりました。

# 上北沢小学校の取組み内容紹介（1/2）

上北沢小学校ではプランの取組みの他、交換授業の実施、校内分掌の見直しと会議時間の確保等の取組みを実践してきました。

## プラン関連の取組み

**PICK UP**

**教科担任制**

- 加配された体育教師が他学年の児童にも積極的に働きかける等により、教科担任制を推進している。

5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。教材研究の時間の確保、学年全体での児童対応力向上等の効果あり！一方、加配の無い学年において効果の限界があるといった声も。

**学校徴収金事務の見直し**

- 各学年から1名会計担当を配置し、教材の発注、児童個人ごとの振り分けを行った。不明点等があった場合、受託事業者との折衝は副校長が行った。

会計報告の作成が不要になった、現金のやり取りが減りミスが減る等の効果あり！一方、準備や登録に時間と負担がかかったとの声も。

## 独自の取組み

**交換授業の実施**

- 高学年における教科担任制だけでなく、1-4学年についても、交換授業を実施している。
- 道徳は全ての学年で内容を分担。また、1年生では体育と音楽、日本語、3年生では体育と理科、社会と日本語を交換した。時間割作成時にこれらの教科が同じコマに重なるよう工夫した。

5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。校内職員との連携が円滑になる、一人で仕事を抱え込まない職場づくりにつながる、といった効果あり！

**校務分掌の見直しと会議時間の確保**

- 管理職主導で校務分掌を削減・スリム化した（「ICT教育課程委員会」を担当中心に進める形とし、「特別支援委員会」を校内委員会に取り込む等）。すべての教員が2つずつ持っていた分掌を減らし、負担軽減とともに会議の回数も削減した。

落ち着いて昼食を取れる、事務作業の時間を確保できる、児童理解につながる、といった効果あり！

# 上北沢小学校の取組み内容紹介（2/2）

前頁で紹介した「教科担任制」の取組みについて、取組みの背景や工夫、学校の先生の声等を伺いました。

PICK UP

教科担任制

- 加配された体育教師が他学年の児童にも積極的に働きかける等により、教科担任制を推進している。



5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。教材研究の時間の確保、学年全体での児童対応力向上等の効果あり！一方、加配の無い学年において効果の限界があるといた声も。

変化前



取組みの導入はどのように進めましたか？



昨年度から、5・6年生の授業において教科担任制を導入しています。また、他学年の授業においても教科担任制を一部導入や交換授業の導入も進めています。

変革期



取組みを進める中で、工夫されたこと・意識されたこと等がありますか？



教科担任制が負担減につながっている背景としては、加配された体育教師が空いた時間に校内を回り、他学年の配慮が必要な児童にも積極的に働きかけたり、他学年の教員ともコミュニケーションを主体的にとってくれているという点が大きいと思われます。

変化後



この取組みを実施したことで、教材研究の時間の確保につながる等の効果があったとのことですが、先生方からは実際にどのような声が挙がっていますか？



教員からは、「授業研究や行事準備に時間を回すことができる」、「学年や専科を含め多面的に児童理解が進む」、「複数の教員が指導に関わることで生活指導面のクラス間格差が出にくい」、といった声が挙がっています。

# 下北沢小学校の取組み内容紹介（1/2）

下北沢小学校ではプランの取組みの他、研修の充実、サマースクールへの地域人材の活用等の取組みを実践してきました。

## プラン関連の取組み

教科 担任制	<ul style="list-style-type: none"><li>加配のあった5年生、6年生に加え、3年生、4年生でも教科担任制を導入している。（3年生、4年生では、社会と理科等の一部教科について交換授業を実施。）</li></ul> <p>約5割の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。 加配のあった学年においては、持ち時数が少なくなり教材研究時間や成績処理の負担が軽減するといった効果あり！</p>
学校 徴収金 事務の 見直し	<ul style="list-style-type: none"><li>教材費担当が2名（専科1名・学級担任1名）担当 学校モールと何度も連絡を取り合い、トラブル等にも対処していた。そのおかげで学年の教材費担当には効果があった。</li></ul> <p>5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。 家庭への連絡が減る、会計事務の負担が減るといった効果あり！一方、準備や登録に時間と負担がかかった声も。</p>

## 独自の取組み

PICK UP 研修の 充実	<ul style="list-style-type: none"><li>OJT研修、若手研修、校内研究を学校内で実施している。</li><li>特別支援や教職員のマナー等について、それぞれ詳しい教員から話が聞ける研修の場としている。</li></ul> <p>8割の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。 授業改善、指導改善につながるといった効果あり！</p>
サマース クールへ の地域 人材の 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>サマースクールに関し、学校支援コーディネーターが中心となって、講師の依頼等を行った。</li><li>授業の補習ではなく、理科の実技・ダンス・英会話等体験型の授業を実施した。</li></ul> <p>夏休み期間中の3日間のサマースクールでは、地域の方に講師を依頼して実施した。 下北沢小学校を卒業した中学生も、ボランティアとして参加してくれている。</p>

# 下北沢小学校の取組み内容紹介（2/2）

前頁で紹介した「研修の充実」について、取組みの背景や工夫、学校の先生の声等を伺いました。

PICK UP  
研修の  
充実

- OJT研修、若手研修、校内研究を学校内で実施している。
- 特別支援や教職員のマナー等について、それぞれ詳しい教員から話が聞ける研修の場としている。

8割の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。  
授業改善、指導改善につながる  
といった効果あり！

変化前



取組みの背景や課題感として、どのような思いがありましたか？



働き方改革の要である、教員一人ひとりの力量を伸ばすことを目的として実施しました。研修で情報を共有することで、それぞれの教員が働きやすくなることも狙いでした。

変革期



取組みを進める中で、工夫されたこと・意識されたこと等がありますか？



教員の力量を伸ばすことは管理職の責任である、という思いで進めました。また、研修の機会を設けることで、教員同士の横のつながりを形成する効果もありました。

変化後



この取組みを実施したことで、授業改善、指導改善につながるといった効果があったとのことですが、先生方からは実際にどのような声が上がっていますか？



教員アンケートでは、「専門性を持った先生の話で刺激を受けることができる」、「学びを活かし複数学級を見ることができた」、といった声が上がっています。

# 瀬田中学校の取組み内容紹介 (1/2)

瀬田中学校ではプランの取組みの他、ペーパーレス化、学校支援地域本部の活用等の取組みを実践してきました。

## プラン関連の取組み

**PICK UP**

**支援員の配置**

- いろいろな場面で、支援員等を配置することで、ICT環境、特別支援教育、学校生活支援の充実を図っている。

➡ **7割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。特に、ICT活用支援員、インクルーシブ教育支援員、学校生活サポーターについて効果を感じている人が多い。**

**学校徴収金事務の見直し**

- 会計担当を各学年に1名ずつ配置し、そのサポートをスクール・サポート・スタッフが行う、といった体制で、学校徴収金システムの導入・活用を進めている。

➡ **「年度末の処理の改善につながる」と期待する声の一部の教員から挙がっている。一方、導入時は操作に慣れることや、保護者との連絡に係る負担等が増えるという声も。**

## 独自の取組み

**配布プリント等のペーパーレス化**

- 会議資料や、保護者・生徒への配布プリントについて、紙媒体から電子媒体での配布に変更した。

➡ **6割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。印刷業務の削減や保護者連絡負担の軽減につながるといった効果あり！**

**学校支援地域本部の活用**

- 地域のサポートが手厚く、学習支援のボランティア等を地域の方をお願いしている。職場体験実施時の企業への声掛け等も、学校支援地域本部のメンバーが行ってくれている。

➡ **約4割の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。関係者の仕事の内容が明確になるといった効果あり！**

# 瀬田中学校の取組み内容紹介 (2/2)

前頁で紹介した「支援員の配置」の取組みについて、取組みの背景や工夫、学校の先生の声等を伺いました。

PICK UP  
支援員の配置

• いろいろな場面で、支援員等を配置することで、ICT環境、特別支援教育、学校生活支援の充実を図っている。

➔ 7割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。特に、ICT活用支援員、インクルーシブ教育支援員、学校生活サポーターについて効果を感じている人が多い。

変化前



各支援員の配置当初、課題等がありましたか？



技能面で、タブレット端末の操作やインターネット接続等に不慣れな教員がいました。一斉授業で、一人の教員だけでは、支援を必要としている生徒に対して、適切に対応できていませんでした。学校生活サポーターは、当初、教室にただで、どのように活用すべきか課題となっていました。

変革期



取組みを進める中で、工夫されたこと・意識されたこと等がありますか？



ICT支援員が、授業のサポートやタブレット端末の管理を担当することで、教員は安心して授業に集中できました。支援を必要としている生徒や教科を把握し、副校長やインクルーシブ教育支援員が、学校生活サポーターを必要としている授業へ参加できるようにスケジュールを管理することで、手厚い指導が可能となりました。

変化後



ICT支援員、インクルーシブ教育支援員、学校生活サポーターの配置に効果を感じている人が多いとのことですが、その他に先生方からはどのような声が挙がっていますか？



学校徴収金の登録作業については、SSSが進めてくれたため、教師への負担感にはあまりつながらず導入できたと思われます。教員アンケートでは、支援員が入ることによって生徒が落ち着いた、という意見も出ています。

# 用賀中学校の取組み内容紹介（1/2）

用賀中学校ではプランの取組みの他、効率的な情報共有、部活動支援員との連携強化等の取組みを実践してきました。

## プラン関連の取組み

### 支援員の配置

- 支援員配置に際し、管理職が活動状況・課題を把握し、教職員全体で共有できる運用を重視した。校内委員会・特別委員会等に、可能な範囲で支援員にも参加してもらい、現場の実態や支援内容を定期的に報告する機会を設定した。

8割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。特に、ICT活用支援員、インクルーシブ教育支援員、ほととろけ支援員について効果を感じている人が多い。

### 学校徴収金事務の見直し

- 会計担当は学年に一人ずつ配置している。見直しの効果が表れるのは、主に会計担当。

「決算報告までの作業の効率が良くなると思う」、「集金や返金は効率化が図れている」と期待する声が教員から挙がっている。一方、導入時は一時的に事務作業、保護者・事業者との連絡負担等が増えるという声も。

## 独自の取組み

### 効率的な情報共有

- 教職員間での情報共有にOneNoteやTeamsを活用し、業務の重複や確認作業を減らす。
- 朝の打ち合わせで活用しているOneNoteを、生活指導部会や校内委員会でも利用を拡大した。

- 7割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。
- 詳細な情報の発信と記録が可能、情報をすぐに共有できるので対応が迅速になる、情報共有の一元化により伝達漏れが減る、といった効果あり！

### PICK UP

### 部活動支援員との連携強化

- 副校長が顧問と外部指導員との連携状況を定期的に確認し、必要な調整やフィードバックを行う場を設けた。

- 8割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。
- 専門知識のある指導員の指導により部活動の練習の質が向上する、部活動時間中の教員負担が減る、といった効果あり！
- 指導員の確保には引き続き課題があるという意見も。

# 用賀中学校の取組み内容紹介 (2/2)

前頁で紹介した「部活動支援員との連携強化」の取組みについて、取組みの背景や工夫、学校の先生の声を伺いました。

PICK UP  
部活動支援員との連携強化

- 副校長が顧問と外部指導員との連携状況を定期的に確認し、必要な調整やフィードバックを行う場を設けた。
- 8割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。
- 専門知識のある指導員の指導により部活動の練習の質が向上する。部活動時間中の教員負担が減る、といった効果あり!
- 指導員の確保には引き続き課題があるという意見も。

変化前



Q

取組みの背景や課題感として、どのような思いがありましたか？

A

本校では部活動の教育的意義を重視する一方、指導体制の確保が課題でした。求める水準（安全管理・技術指導・教育的配慮）を満たす人材が十分に集まらず、確保できても本務や家庭事情等で継続配置が難しく、年度途中の交代が生じやすい状況でした。結果として調整負担が増え、指導の一貫性や生徒の成長の連続性への影響が懸念されました。そこで部活動支援員との連携強化により、運営の安定化と質の担保を図る必要がありました。

変革期



Q

取組みを進める中で、工夫されたこと・意識されたこと等がありますか？

A

地域連携により、人材確保の入口を広げることを重視しました。用賀コミュニティクラブ（YCC）に人材の発掘・斡旋を依頼し、大学連携では大学から直接人材を確保するルートも整備しました。さらにTプロにも登録し、多方面から候補者を募る体制としました。連絡窓口を一本化し、依頼から配置までの手順を標準化しました。役割分担を明確にし、教員が担うべき業務に集中できる体制を整えました。

変化後



Q

この取組みを実施したことで、部活動の練習の質が向上する、教員負担が減る等の効果があったとのことですが、その他に先生方からはどのような声が挙がっていますか？

A

部活動の質について「生徒への十分な技術指導が可能になる」、「多くの人材が指導に関わることで、練習の質が向上する」との声が挙がっています。また、「部活動時間中に他の業務ができる」、「会議等があっても部活動を継続できる」といった声もあります。

# 船橋希望中学校の取組み内容紹介（1/2）

船橋希望中学校ではプランの取組みの他、部活動の最終下校時刻の設定、行事の朝練の廃止、定期考査の回数削減等の取組みを実践してきました。

## プラン関連の取組み

支援員の配置	<ul style="list-style-type: none"><li>特別支援に関する支援員は、仕事分担を決め、教育相談主任がハブになり活動を行ってもらった。</li></ul> <p>➔</p> <p><b>6割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。特に、ICT活用支援員、インクルーシブ教育支援員、学校生活サポーターについて効果を感じている人が多い。</b></p>
学校徴収金事務の見直し	<ul style="list-style-type: none"><li>各学年に担当者を置き、みんなで確認しながら作業を進めた。いろいろなケースが出てきて、それに対応する1年だった。</li></ul> <p>➔</p> <p><b>「教員の手を離れば負担減につながりうる」と期待する声の一部の教員から挙がっている。一方、導入時は一時的に事務作業、保護者・事業者との連絡負担等が増えるという声も。</b></p>

## 独自の取組み

PICK UP 部活動の最終下校時刻の設定	<ul style="list-style-type: none"><li>これまで18時30分としていた部活動の最終下校時刻を、18時とした。</li></ul> <p>➔</p> <p><b>5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。退勤時間が早まる、他業務の時間を確保できる、といった効果あり！</b></p>
行事の朝練の廃止	<ul style="list-style-type: none"><li>今年度より、運動会（5月）と学芸発表会（10月）の朝練を廃止した。</li></ul> <p>➔</p> <ul style="list-style-type: none"><li><b>7割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。</b></li><li><b>生徒の疲労感が減る、教員負担が減る、といった効果あり！</b></li></ul>
定期考査の回数削減	<ul style="list-style-type: none"><li>採点業務の負担軽減等を目的に、一学期の中間考査をなくし、定期考査の回数を削減した。</li></ul> <p>➔</p> <p><b>5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。試験の回数が減ることで、作問や採点の時間削減、負担軽減につながる、といった効果あり！</b></p>

# 船橋希望中学校の取組み内容紹介（2/2）

前頁で紹介した「部活動の最終下校時刻の設定」の取組みについて、取組みの背景や工夫、学校の先生の声等を伺いました。

PICK UP  
部活動の  
最終下校  
時刻の設  
定

これまで18時30分としていた部活動の最終下校を、18時とした。  
5割以上の教員が「効果を感じる/効果が見込まれる」と回答。  
退勤時間が早まる、他業務の時間を確保できる、といった効果あり！

変化前



Q

取組みの背景や課題感として、どのような思いがありましたか？

A

顧問がきちんとついて部活動を行っていたので、事務仕事や教材研究を部活動終了後に行う教員も多く、退勤時刻が遅くなってしまっていました。

変革期



Q

取組みを進める中で、工夫されたこと・意識されたこと等がありますか？

A

校内で教員への説明と同意を得てから、前年度末の学校だよりや保護者会で説明し、年度当初から実施したので、大きな混乱はなく、スムーズに移行しました。

変化後



Q

この取組みを実施したことで、退勤時刻を早められたとのことですが、その他に先生方からはどのような声が挙がっていますか？

A

業務時間が確保できるようになったという意見のほか、部活に参加する生徒も時間を大切にして練習に臨むようになった・集中して取り組めるようになった、といった意見がありました。